

関西言語学会第45回大会(KLS45)

日韓語の指示詞の対照研究

—原理から外れる事例を中心に—

名古屋大学大学院生 李康元
名古屋大学人文学研究科堀江薫

lw1501@gmail.com
horieling@gmail.com

1

1. 研究対象と目的

指示詞は、直示(deixis)現象の一つとして捉えられる。Levinson(1983)は直示を「言語が発話文脈あるいは発話事態の特徴をコード化あるいは文法化する方法であり、したがって発話の解釈も当該の発話文脈の分析と関連する」と定義づけている(Levinson 1983: 54)。

指示詞の類型論的研究(Anderson&Keenan(1985), Himmelmann(1996), Diessel(1999))を参考に、**日韓語の指示詞の使用原理**を表1のようにまとめる。

表1.日本語と韓国語の指示詞

	人称原理(person-oriented)	距離原理(distance-oriented)
コ	Sから近い (1 st person)	SとAから近い (proximal)
ソ	Aから近い (2 nd person)	SとAから中間 (medial)
ア	SとAから遠い (3 rd person)	SとAから遠い (distal)
i	Sから近い (1 st person)	
ku	Aから近い (2 nd person)	
ce	SとAから遠い (3 rd person)	

目的
原理から外れるJとKの指示詞の実例を分析、考察

(e.g. 1st personの指示領域にコ、iではない指示詞が使われる場合)

2

2.1. 指示詞の原理に関して

人称原理 (distance-oriented system)

S(speaker), H(hearer), a, b, cはコップ (Imai 2003, 一部修正)

A: どれが7Cですか?
B: それです/そのコップです…

表2.人称原理

Spk	0cm	40cm	80cm	120cm	160cm	Adr
Japanese	ko	ko/so	so/a	so/a	so/a	
Korean	i	i	i/ce	ce/ku	ce/ku	

SとHの領域が対立する、いわゆる**対立型**の場合。
Sの領域内→コ/i, Hの領域内→ソ/ku, S&H以外の領域→ア/ce, **顕著な差はない**

3

2.1. 指示詞の原理に関して

距離原理 (distance-oriented system)

S(speaker), H(hearer), a, b, cはコップ (Imai 2003, 一部修正)

A: どれが7Cですか?
B: それです/そのコップです…

表3.距離原理

Spk/Adr	0cm	40cm	80cm	120cm	160cm
Japanese	ko	ko/so/a	ko/so/a	so/a	so/a
Korean	i	i	ce	ce	ce

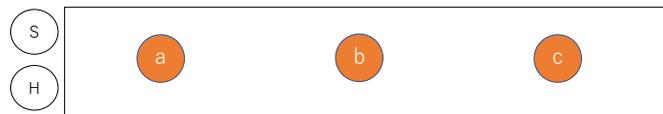
Jはdual-anchored(いわゆる**融合型**)、SとAからの**近、中、遠の距離**
Kはaddressee-isolated(いわば**対立型**)、**Sの領域の内/外**がi/ceの指示領域

4

2.2.日本語の指示詞における中距離問題

5

日本語の中距離(medial)指示用法



(1) (a, b, cはコンビニである。a, b, cの名前を聞かれて)
A: {これ/ここ}がファミマ、{#それ/そこ}がローソン、{あれ/あそこ}がセブンイレブンです。

→表2の距離原理が働くはずだが、「そこ」に比べ「それ」は容認度が低く、文脈指示でしか使うことができない。したがって中距離指示が不完全ないし存在しない可能性がある(cf.(2))。

(2) *Esto* es una refresadora. *Eso* es una cierra. *Aquello* es una escua dradora
「これが製粉機で、それがごきり、あれが切断機です」 (Jungbluth(2003))
→距離原理を持つといわれるスペイン語では(2)のような例がごく自然である。

5

2.3.韓国語の指示詞における中距離用法

6

韓国語の中距離(medial)指示用法

(3) (タクシーの客Aが運転手Bに言う場合)

A: 「すみません、{そこ/あそこ}の角を右に曲がってください。」
(金水・田窪(1990), 一部修正)

(3') (tayksi an-eyse sonnim A-ka wuncensu B-eykey malha-nun kyengwu)

A: coysongha-ntey, { ??keki/ceki } kone-lul olunccek-ulo
tol-acwuseyyo.

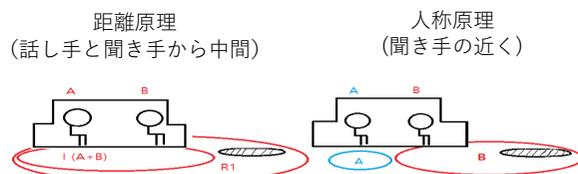
lit. 「すみませんが、{??そこ/あそこ}のコーナーを右に曲がってください」

→韓国語の指示詞に(3')のような中距離指示が存在するという金(2006)の指摘

6

2.3.韓国語の指示詞における中距離用法

7



→金(2006)の主張のように、kuが中距離として成立するためには特殊な条件が必要となる。例えば、運転主席と後部座席の距離が遠いリズムンにSとHが乗っている場合などに限って可能となるのである。

したがって、(3')で見られるku(ㄴ)の使用は、SとHからの中間距離指示(左の図)ではなく、聞き手の近く(右の図)を指示する人称原理によるものである。

7

2.4.先行研究のまとめ

8

J, Kは人称原理という共通点を持つ

議論の余地はあるがJ, Kの指示詞は(人称)原理の面では類似している。しかし、(5)のように原理では説明しきれない例も存在する。なお、管見の限り、このような問題とその原因の説明を追究した先行研究は皆無に等しい。

(5) (映画館で、スクリーンに映っている人物を指し)

この人、だれだっけ?

ce salam nwukwuyessci? ‘あの人、だれだっけ?’

(李(2010), 一部修正)

このようなJとKのズレは、何を領域内/外のものとして捉えるかという異なる事態把握ないしは概念化(conceptualization; Langacker1987)にその原因があると仮説を立て、説明を試みる。

8

3.1.1.(間)主観性((inter)subjectification)

9

(間)主観性とは

- 共時的・認知的な観点から → ある関係の客観的な軸から主観的な軸への再配置 (Langacker1990:17)
- 通時的・文法化の観点から → 意味が命題に対して話し手の主観的信念や状態/態度を表す方向に変化する意味・語用的プロセス (Traugott 1995:35)
- 日本語と韓国語において → 文法形式が(意味論的・語用論的)意味を獲得、拡張する際に、韓国語に比べ日本語の方が「間主観的」な意味を獲得、拡張する傾向が強い。(堀江2009:174)

9

3.1.1.(間)主観性((inter)subjectification)

10

終助詞「ね」と終結語尾-ney

(7)annyenghasipnikka? ancenmo-lul an ssu-sy-ess-**ney**-yo. myenheocung com po-y-e cu-si-psiyo.

こんにちは。ヘルメットを被っていません**ね**。免許証を見せてください。

(8)palam-l ssalssalha-**ney**-yo

風が冷たいです**ね**。

(平2012:364, 一部修正)

日本語の終助詞「ね」と韓国語の終結語尾(終助詞にあたる)neyは(7)(8)のように類似した用法を持つように考えられ、学習者にとって混同を招きやすい表現であるが、平(2012)の分析によると、両者は本質的に違うものである。

…聞き手への同意や話し手と聞き手の情報の一致を表す終助詞「ね」と、話し手の認知変化を表す-ney(yo)はその機能、用法が本質的に異なるものである。

(ibid: 364, 一部修正)

10

3.1.2.本研究における(間)主観性((inter)subjectification)

11

J「間主観的」 VS. K「主観的」

本研究における仮説と概念の定義を以下のようにまとめる。

a. 怒り、驚きなどの話し手の主観的感情/態度が言語表現に反映され、**物理的な条件が背景化**された場合、「**主観的**」であるとする。

b. 一方、話し手と聞き手が同意した共有作業にかかわっており、**物理的な条件が背景化**された場合、「**間主観的**」であるとする。

c. 指示表現は話し手の視点(viewpoint)および主観性の最も典型的な表れであり、言語間で異なり得る。

11

3.2.1.ㄱ vs. ce(ア)

12

(9)(A、Bが映画館で映画を見ており、スクリーンはA、Bから30メートルくらい離れている。スクリーンに映っている人物に対し)

A: あ、**ㄱ**人、誰だっけ。忘れちゃった。

a. **ce** salam nwukwuyessci? Kkamekessta.

lit. 「あ、あの人誰だっけ。忘れちゃった」

(李(2010), 一部修正)

(10)(携帯電話のアプリでのやり取り。AがBに写真を転送し、写真の中の人物について聞く)

A: [写真]

B: いきなり何?

A: な、**ㄱ**人見たことある?

ya, **ce** salam pon cek isse?

lit. 「な、あの人見たことある?」

(実体験による作例)

12

3.2.1. コ vs. ce(ア)

13

(11)(Aが後ろに立っていたCを拳銃で殺し、Bは死んで倒れているCを眺めている。AはCを見ないで振り返ったまま言う)

A: ほら、死んだ。

B: 西君!

A: こういうやつ、足引っ張るだけだつて。

celen nyesek, palmok capulppwunilanikka.

lit. 「ああいうやつ、足引っ張るだけだつて」

(映画『GANTZ : O』)

→(9)から(11)の日本語において、指示対象はSとAとともに認識されており、**共同作業的**に捉えられている。したがって、離れているという**物理的条件は背景化**され、あたかも近距離に存在するもののようにSとHの領域内のものでコとしてとらえられている。

一方、**韓国語**は)と同様に、指示対象をSとHともに認識している状態ではあるが、その条件が物理的な条件を超えて指示詞の選択にまでは影響が及ばさない。したがって、**物理的な条件が背景化されることなく、ce(ア)**で指示される。

13

3.2.2. コ vs. ku(ソ)

14

(12)(机を組み立てている状況。Aがビニール袋の中のものを持ってきている。その時、BがAの手に持たれているものについて聞く。AとBの距離は2メートルくらい離れている。)

A: ん…

B: うん? 何 これ?

e? mweya, kuke?

(実体験による作例)

lit. 「うん? 何それ?」

指示対象をSとHがともに認識し、机を組み立てている点で共同作業である。**日本語**では、共同作業という特殊な条件上、Hの領域内のものという**物理的条件は背景化**され、あたかも共同所有のもののように認識され、コで指示されている。

一方、**韓国語**では共同作業であるが、Hの領域内のものであるという**物理的な条件を超えることはできない**。したがって、Hの領域内のものとして、**ku(ソ)**で指示されている。

14

3.2.3. ソ vs. i(コ)

15

(13)(AとBが刀を持って決闘中で、AとBが刀を交えてにらみあっている。

AがBの刀がおかしいと気が付き、言う)

A: なんだ、その刀は?

mwenya, ikemun?

lit. 「なんだ、この刀は?」

(映画『るろうに剣心』)

(14)(Aが後ろからBを追いついており、Bは気づいていない。AがBの後頭部を殴ると、Bが振り返る。)

A: おい!

B: 痛っ!

A: お、そのままお化け役出来そうやな!

ya, itaylo kwisin pwuncang hayto toykeyssta!

lit. 「お、このままお化けの扮装してもいいね」(ドラマ『宇宙を駆けるよだか』)

15

3.2.3. ソ vs. i(コ)

16

(13)(14)は(9)から(12)とは違って、指示対象にSとHがともにかかわっていないため、**共同作業ではない**。

したがって、**日本語**においても**物理的条件が背景化されることはなく**、Hの領域を指示するソが使われている。

一方、**韓国語**では「驚き」という主観的感情を表すためにi(コ)が使用されており、Hの領域という**物理的条件が背景化**されているように見える。

しかし、iが使用されるのはSの近くという**物理的な条件が満たされている場合のみ**で、怒りや驚きなどのSの主観的感情を表す時でさえ、依然として物理的な条件は守られるのである。

このことは(14')のように、i(コ)とku(ソ)の両方が使用可能であるが、kuよりiで話し手の驚きを強く表現できる点から確認できる。

(14') ya, itaylo/kutaylo kwisin pwuncang hayto toykeyssta!

lit. 「お、{このまま/そのまま}お化けの扮装してもいいね」

16

3.2.4. ソ vs. ce(ア)

17



(15) 犯人Bは刑事Cの近くにおり、BとCは近くにいるが、AはBとCから離れている。Aは内省の結果、Cの近くにいるBが真犯人であることに気づいて言う)

A: その人よ、その人が犯人よ!

*ce salam*eyo, *ce salam* peminieyo!

lit. 「あの人よ、あの人^が犯人よ！」 (映画『名探偵コナン 水平線の陰謀』)

問題となってくるのは(15)で、具体的にはBとCが談話中であつたところをAが(15)の発話で初めて談話に参加する状況である。(15)は本研究で言う物理的条件の背景化を伴う「原理から外れた事例」ではないため、詳しくは議論できないが、以下の点が指摘できると考えられる。

まず、距離原理が存在しない韓国語では、ku(ソ)とce(ア)が潜在的には可能であるが、kuの2人称領域指示は、聞き手が特定していないため不可能である。したがって、3人称領域指示の意味でceが使われている。

17

3.2.4. ソ vs. ce(ア)

18

日本語のソの使用は、従来の分析(佐久間(1951), 坂田(1971), Imai(2003)など)によると、中距離指示(medial)か2人称領域指示(2nd person)であると分析できるが、いずれにおいても以下のような問題が生じてくる。

1. (15)のソを中距離(medial)指示だとすると、中距離指示の条件である融合型(SとHの領域が対立せず、融合された場合)というのは否定しなければいけない。なぜなら、聞き手が犯人Bであれ、刑事Cであれ、Aと領域が融合されていないためである。したがって、融合型という概念は否定され、Sからの近、中、遠距離がコ・ソ・アの指示領域となる認めないといけない。

2. (15)のソを2人称領域(2nd person)指示だとすると、日本語のソは談話が進行中ではなくても、潜在的な聞き手の領域を指す特殊なHの領域指示用法が存在すると認めないといけない。

18

3.3. まとめ

19

本研究ではJとKの指示詞の現場指示用法の使用に関して、(間)主観性と事態把握の観点から仮説を立て、物理的な条件が背景化された事例を分析、考察した。結果は以下の通りである。

1. 人称原理と距離原理という原理から説明できない事例が多数存在する。

2. Jは現場と談話参加者の役割が言語表現、特に指示詞の選択に与える影響が大きい相対的言語の特徴がみられ、指示対象を共同作業的にとらえた場合、物理的な条件が背景化し、原理からのずれが観察できる。

3. Kは驚き、怒りなどの話し手の主観的な感情を表す際、原理から外れた事例が観察できる。しかし、依然として物理的な条件が背景化することはない。

19

参考文献

20

- Anderson, S. R., & Keenan, E. (1985) Deixis, In Timothy Shopen (ed.) *Grammatical categories and the lexicon*, 259–308, Cambridge: Cambridge University Press.
- Diessel, H. (1999) *Demonstratives: Form, function and grammaticalization* (Vol. 42), John Benjamins Publishing.
- Fillmore, C. J. (1997) *Lectures on deixis*. Stanford: CSLI publications.
- Himmelmann, N. P. (1996) Demonstratives in narrative discourse: A Taxonomy of Universal Uses. In Barbara Fox (ed.) *Studies in Anaphora*, 33, 205–254, Amsterdam: John Benjamins.
- 堀江薫・ブラシャント・バルデン(2009)『言語のタイポロジー：認知類型論のアプローチ』研究社
- Imai, S. (2003) Spatial Deixis in Korean and Japanese: addressee-anchor isolated system versus dual-anchor system. *Japanese Korean Linguistics*, 13, 340–351.
- Jungbluth, K. (2003) Deixis in the conversational dyad, In Friedrich Lenz (ed.) *Deictic Conceptualisation of Space, Time, and Person*, 13–40, Amsterdam: John Benjamins.
- 金水敏(1990)「談話管理理論からみた日本語の指示詞」『認知科学の発展』3, 85–116, 日本認知科学会
- 金善美(2006)『韓国語と日本語の指示詞の直示用法と非直示用法』風間書房
- Langacker, R. W. (1987) *Foundations of cognitive grammar. Volume I: Theoretical prerequisites*. Stanford: Stanford University Press.

20

参考文献

21

- Langacker, R. W. (1990) Subjectification. *Cognitive Linguistics*, 1, 5-38.
- Levinson, S. C. (1983) *Pragmatics*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Levinson, S. C. (2004) Deixis and pragmatic, In L. Horn & G. Ward (ed.) *The handbook of pragmatics*, 97-121. Oxford: Blackwell.
- 李賢淑 (2010) 『現場指示使用に見られる認識の差に関する韓日対照研究』『日語日文学』45, 177-196.
- Prince, E. F. (1992) The ZPG Letter: Subjects, Definiteness, and Information-status. In Sandra Thompson and William Mann (eds.), *Discourse Description: Diverse Analyses of a Fund Raising Text*. John Benjamins, 295-325.
- 佐久間鼎 (1951) 『現代日本語の表現と語法』(くろしお出版復刊1983)厚生閣
- 平香織 (2012) 『終止形I-거튼(요), I-네(요), II-르계(요), II-르래(요)はいかに働くか』野間秀樹(編)『韓国語教育論講座第2巻』353-371、くろしお出版
- Traugott, E. C. (1995) Subjectification in grammaticalization. In Dieter Stein and Susan Wright (eds.), *Subjectivity and Subjectivisation: Linguistic Perspectives*, 31-54. Cambridge: Cambridge University Press.
- 山田達也(1967)『指示詞コ・ソ・アについて--その意義特徴の考察』『名古屋市立大学教養部紀要人文社会研究』名古屋市立大学教養部11: 1-7

資料

- 川村奏・佐藤敬一 (2016) 映画：『GANTZ：O』
- 松山博昭 (2018) ドラマ：『宇宙を駆けるよだか』
- 大友啓史 (2012) 映画：『るろうに剣心』
- 山本 泰一郎(2005) 映画：『名探偵コナン 水平線の陰謀』

21